

～子どもたちの笑顔でいっぱい～
みしま子どもの祭典・川之江児童館こどもフェスティバル・土居釣り大会 5/2・5



みしま子どもの祭典



こどもフェスティバル



土居釣り大会

子どもたちの健やかな成長を願い、市内各所でさまざまな催しが行われました。三島児童センターではみしま子どもの祭典、川之江児童館ではこどもフェスティバルがあり、そうめん流しや、輪投げ、しゃぼん玉遊びなど、会場は子どもたちの笑顔や元気な笑い声に包まれました。また、土居町の浦山川では約7,000尾のマスを放流して土居釣り大会が行われ、市内外から訪れた2,500人の参加者が大物を狙って釣りつかみ取りを楽しみました。各会場とも快晴の中での開催となり、家族連れなどで大変にぎわいました。

～共生社会をつくろう～
障害者差別解消法研修会 5/9 (土)



中之庄公民館で障害者差別解消法研修会が行われました。特定非営利活動法人DPI日本会議事務局長の佐藤 聡さんによる「いよいよ障害者差別解消法が始まる～どんな準備が必要か～」と題した講演では、佐藤さんの経験や実例を通して、社会モデルの考え方や差別の定義について話がありました。

認定こども園「金生幼稚園」
による花まつり贈呈式 5/8 (金)



市長室で認定こども園金生幼稚園(土肥義紹園長)による花まつり贈呈式が行われました。これは、同園が認定こども園開設に至った経緯から感謝状と花束を贈呈するため市長を表敬訪問したものです。また、守屋舞美ちゃん、渡邊向葵ちゃん、田邊湧大くん、田邊竣也くんから甘茶などの贈呈が行われました。

～学校給食の地産地消を推進～
市学校給食米田植え体験会 4/25 (土)



土居町津根の長津干拓で、学校給食米田植え体験会が開催されました。今年で11回目の実施で、市内の小学生と保護者など約130人のほか、早乙女姿に扮した参加者と一緒に、昔ながらの手植えによる田植えが行われました。この体験会は、学校給食における地産地消を推進する取り組みの一つとして毎年行われています。

～防災意識の向上～
模擬倒壊家屋で防災訓練 4/26 (日)



金田町半田の本村上自主防災会(合田広行会長)が地域の広場で防災訓練を行いました。倒壊家屋からの救出訓練では、消防本部の救助隊員による危険個所の確認方法や安全確保のほか、救助のための進入口の確保や応急処置など実践しながらの訓練を行い、参加したおよそ60人は防災意識の向上につなげていました。

～迫力あるプレーに歓声～
アイランドリーグ公式戦 4/26 (日)



浜公園川之江球場で、愛媛マンダリンパイレーツ対香川オリーブガイナーズの試合が行われました。快晴の中、会場を訪れた多くの家族連れ、少年野球チームのメンバーなど約760人の観衆が見守る中熱戦が繰り広げられ、応援団の歓声が球場中に響き渡りました。試合は6対5で見事パイレーツが接戦を制しました。

～水産資源を守るために～
鮎の放流事業 5/1 (金)



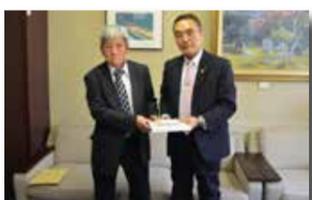
銅山川漁業協同組合(坂上正則組合長)による鮎の放流事業が行われました。この事業は、水産資源の繁殖・保護・増産と遊魚などによる観光振興につながることを期待して実施されています。当日は、漁協組合員や関係者など約25人が、富郷町杉成や豊坂などの銅山川に10cmほどの鮎の稚魚約15,000尾を放流しました。

就活! 四国中央市企業合同
同就職説明会 in 松山 4/11 (土)



松山市総合コミュニティセンターで四国中央市企業合同就職説明会が開催されました。当日は地元の企業など38社それぞれが工夫を凝らしたブース展示と、若手職員の積極的な話し掛けにより、県内外から参加した159人の学生(四国中央市出身の学生は約半数)からも、熱心な質問が繰り返されるなど、大盛況のうちに幕を閉じました。

～富郷地区協議会～
写真集「ふるさと富郷」を寄贈 4/17 (金)



富郷地区協議会(藤田康雄会長)から市内の公民館と学校に、写真集「ふるさと富郷」49冊が寄贈されました。この写真集は、富郷町の「今」と「昔」や四季折々の姿、地域に伝わる昔話や風習などを紹介する内容となっています。藤田会長は「富郷町に伝わる歴史を多くの人に知ってもらいたい」と話していました。

～高原に広がる菜の花畑～
翠波高原菜の花まつり 2015 4/19 (日)



翠波高原で菜の花まつりが開催されました。花園には見頃を迎えた菜の花が咲き揃い、市内外から訪れた多くの家族連れなどは、園内を散策して写真を撮ったり、展望台からの景色を眺めたりして、楽しい時間を過ごしていました。また、会場では、無風風作り体験やバザーなどさまざまな催しが行われました。

～紙のまち資料館の充実のために～
寄附金の贈呈 4/20 (月)



南流勢運輸株式会社(矢野正樹代表取締役)による寄附金贈呈式が市長室で行われました。これは、本市の紙の文化と産業の学びの拠点である「紙のまち資料館」の充実のため、電気具のLED化に要する費用として50万円が寄付されたものです。これに対し、篠原市長から同社会長矢野隆志さんへ感謝状が手渡されました。

市役所のすぐ北側にJR予讃線の線路が通っている。ぼんやりと列車が通過している景色を眺めていたら、1両編成の普通列車が、一人前に踏切の警報を鳴らしながら通り過ぎて行った。伊予三島駅を出発し、川之江駅に到着まで、わずか4分である。昼前の時間帯からして、通勤でも、通学でもないと思うが、各駅停車の電車もいるのだらう。線路のダイヤの編成苦勞もあるのではないかと。6両編成の特急列車が、なぜか立派に見える。20分ほど見ていたら、今度は、2両編成の普通列車が通過して行った。夏目漱石が、小説「ぼっちゃん」の中で、舟を降りたら、通っている路面電車をマツチ箱のようだと形容したが、何気ない日常の風景も、じつと良く見れば、結構面白い。4階の窓から見えるもので動いているものといえば、沖に見える大きな船、道路を走る車と通行する人、小さな小鳥、そして列車、一番地球が早く動いていると思うが、大きすぎて実感が無い。どこまでどういふふうか、動かないかなと凝視すれば、雲の動きも結構よく見える。煙突の煙も休むことがない。もし煙突からの煙が途絶えてしまつたら、大変なことになる。計画が順調に進めば、この窓から見える情景は、この数年でおさらばとなる。理屈は別にしても惜しい、無くするのは本当に惜しい。当たり前のことだが、もうこの一瞬は二度と繰り返すことはない。地球上のどこかには、すべて、過去の連続で構成されている。私たちも、しよせん、歴史のライダーが過ぎないが、一コマは一コマの意地とプライドを持って、胸を張っていたいものである。と変わるから、相対して動くのである。人間って、本当に、つまらないこともいっぱいあるが、駆け出して走りまわりたいような、素晴らしいこのともたくさん持っているのだ。

市長のひとりごと



四国中央市長 篠原 実
テーマ 動体